



Honda Flight Training Center

Honda Airways

お問い合わせ先：

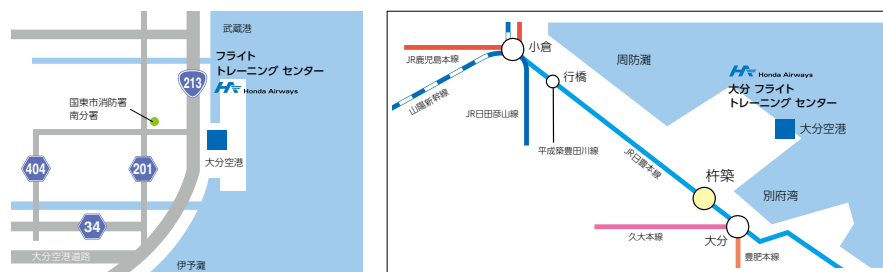


本田航空株式会社 フライト・トレーニング・センター

〒873-0421 大分県国東市武蔵町系原 3286-14 TEL 0978-64-8311 FAX 0978-64-8314

mail：infohftc@honda-air.com

ACCESS MAP：



ホームページも合わせてご参照ください。

<https://honda-air.co.jp>



Get a dream!

心を育てることから始めます。それが Honda Airways です。

本田航空は創始者本田宗一郎の“夢と志”を引き継ぎ、乗員養成部門として、資格取得の技量付与のみならず、将来、機長として安全運航を堅持し、航空界で活躍し、長く社会に貢献出来る人材の育成を目指します。
その為に、基礎教育の中で、基本的事項の付与は勿論、将来必要とされる能力の方向性を付与し、自発的に考え、工夫し、行動できる意識、概念を体得してもらう事を目指します。

Self-Management 自己責任感・自己学習・自助努力

Aspiration 向上心

Health Care 健康管理

総合技量管理体制の更なる構築を目指しています。

- ・自分の事は自身で考え、決断し、責任を持って行動する意識を持つ。
- ・自分に適した日常健康管理に留意し、実践出来る。
- ・常日頃から、必要な知識は自ら習得する意識を持つ。自ら手に入れたものは有効に生かされる。
- ・プロとして、常に自助努力の必要性が認識出来ており、日々向上している。



グローバルな今の時代だからこそ プロフェッショナルな仕事が求められています。

世界はグローバル化の流れの中で、それぞれのリスクを抱えながらも交わり合い、連携を模索しています。地球全体の連携、理解を深めるために、世界、日本の人々を迅速に結びつける手段として、航空交通機関の果たす役割は大きく、重要です。

乗員養成部門として、世界の空の安全、日本の空の安全を守り、運航を維持する要員を育成する責任は大きく、また社会に対する貢献も高いと考えられます。

*
CPL …… Commercial Pilot Licence
IR …… Instrument Rating
MR …… Multiengine Rating

トレーニング カリキュラムのご紹介

国内一貫教育コースの場合

■ エアラインを目指すあなたへ

事業用操縦士コースⅡ【CPL CourseⅡ】

PHASE1【自家用相当コース】
パイロットとしての新たな人生のステージが幕を開けます。

PHASE2【事業用相当コース】
プロフェッショナルへの更なる高みを目指します。

PHASE3【多発相当コース】

■ 操縦教官を目指すあなたへ

事業用操縦士コースⅠ【CPL CourseⅠ】

PHASE1
パイロットとしての新たな人生のステージが幕を開けます。

PHASE2
プロフェッショナルへの更なる高みを目指します。

多発限定コース【MR Course】

高い効率性と集中できる環境をご用意しています。

計器飛行証明コース【IR Course】

大分空港をベースとして、13空港で訓練を行います。
実践的マネジメント訓練を取り入れています。





Try it!

人材の育成に大切な事とは、絆から生まれるコミュニケーション能力とプロになる為の自助努力に他ならない、と考えています。

エアラインパイロットを養成する本課程では、事業用操縦士コースからスタートします。
国内一貫教育コースでは、PHASE1(自家用相当)を履修後、PHASE2(事業用相当)へ進み免許取得を目指し一気に駆け上がります。
Honda Airwaysではその教育の場を滑走路脇に配し、時間的効率だけでなく制限を受けない離着陸でストレスなく訓練に打ち込みます。
同期と協力しながら飛行訓練に取り組み、コミュニケーションスキルを身につけ、プロとしての技術と心を学んでいきます。

Honda Airwaysが人材育成に力を入れる3つの柱

- ・指導体制の強化 指導体制強化の一環として、エアラインFF5 (B737-NG/A320) によるJET慣熟・エアライン運航慣熟を目的とした教官研修などを実施しています。未来のパイロットにとって起こりうる重要な事柄や、要望・養成等を見据え、指導体制の充実を計っています。
- ・座学体制の強化(必要教材の体系化) 必要教材の体系化、電子化ネット閲覧、集合形式／セルフ・スタディ等の工夫による効率化を図り、座学体制の更なる充実を目指しています。
- ・施設の充実(指定養成施設としての認定) 新たに格納庫等を増設し、収容人数対応能力を増やし、教育環境の充実を計っています。

資格取得までの流れをご紹介します。

大分空港／大分フライト・トレーニング・センター

エアラインを目指すあなたへ



操縦教官を目指すあなたへ

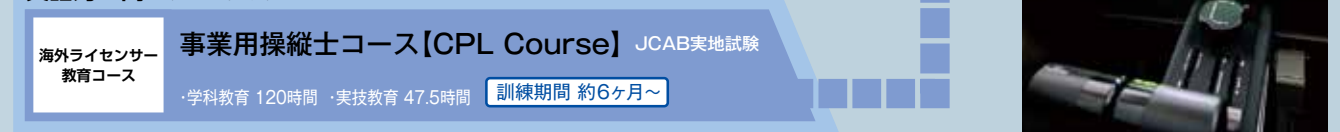


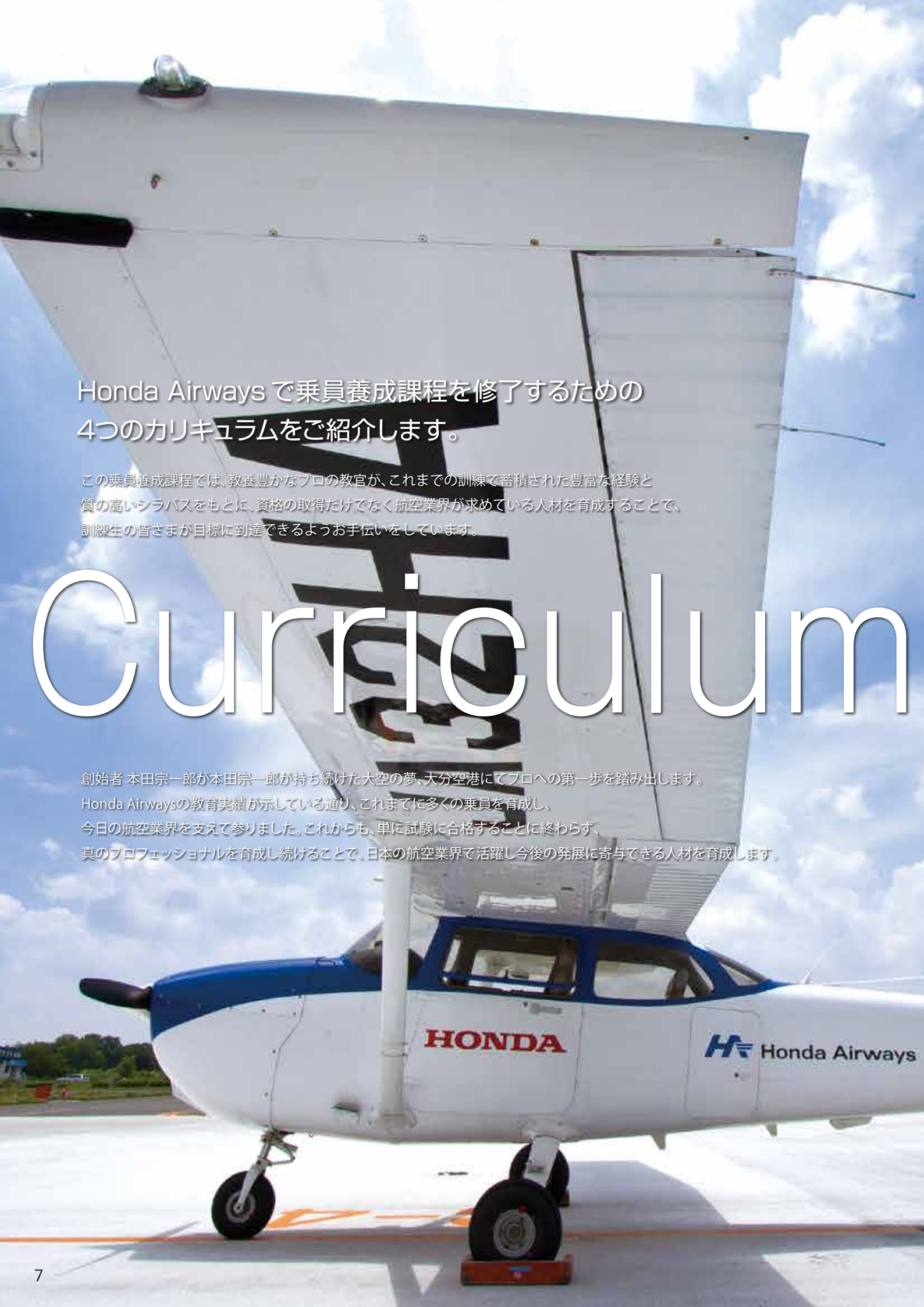
航空従事者養成施設とは？

航空従事者(操縦士)として航空業務を行うためには、国土交通大臣が実施する試験により、業務を行うための知見や能力を有しているかの判定を受けた上で、技能証明を受ける必要があるが、国土交通大臣が指定した指定養成施設の教育課程を修了した者については、試験の全部又は一部を免除することができます。



英語力を高めたいあなたへ





Honda Airwaysで乗員養成課程を修了するための 4つのカリキュラムをご紹介します。

この乗員養成課程では、教養豊かなプロの教官が、これまでの訓練で蓄積された豊富な経験と質の高いシラバスをもとに、資格の取得だけでなく航空業界が求めている人材を育成することで、訓練生の皆さまが目標に到達できるようお手伝いをしています。

Curriculum

創始者 本田宗一郎が本田宗一郎が持ち続けた大空の夢、大分空港にてプロへの第一歩を踏み出します。
Honda Airwaysの教育実績が示している通り、これまでに多くの乗員を育成し、今日の航空業界を支えて参りました。これからも、単に試験に合格することに終わらず、真のプロフェッショナルを育成し続けることで、日本の航空業界で活躍し今後の発展に寄与できる人材を育成します。



～ エアラインを目指すあなたへ～

CPL II

Commercial Pilot Licence II

事業用操縦士コースⅡ

— 航空局航空従事者養成施設 —

Cassna 172S Skyhawk Performance

Maximum Cruise Speed : 124ktas (230km/h)
Range : 640nm (1,185km)
Maximum Operating Altitude : 14,000ft (4,267m)



指定航空従事者養成施設として、充実した訓練環境・機材・施設にて、全課程国内一貫での訓練を行い、ライセンスを取得します。
エアラインパイロットを目指すあなたへ、弊社おすすめの最短最適な教育コースです。

学科教育時間配分

PHASE 1&2 (全課程460時間)			
科 目	教育時間		
	PH1	PH2	合計時間
航空の安全に関する一般知識	8.0	7.0	15.0
救急法	4.0	2.0	6.0
プロフェッショナルとしての知識の醸成	2.0	2.0	4.0
航空気象	40.0	30.0	70.0
空中航法 (1) 地文航法、推測航法及び無線航法 (2) 飛行計画 (3) 運航管理 (4) 人間の能力と限界(ヒューマン・ファクターを含む)	30.0	30.0	60.0
航空通信(概要)	15.0	15.0	30.0
航空法規(航空交通管制及び航空情報を含む)	30.0	30.0	60.0
航空工学 (1) 飛行理論 (2) 航空機構造 (3) 航空機装備(動力装置含む) (4) 航空機整備 (5) 重量重心位置	40.0	30.0	70.0
航空機の取扱いに関する一般知識	40.0	15.0	55.0
航空機の操縦に関する一般知識	40.0	20.0	60.0
試 験	10.0	20.0	30.0
合 計	259.0	201.0	460.0

PHASE 3 (全課程40時間)	
科 目	教育時間
航空工学	4.0
航空法規	2.0
航空機の取り扱いに関する一般知識	14.0
航空機の操縦に関する一般知識	14.0
試 験	6.0
合 計	40.0



～エアラインを目指すあなたへ～

CPL II

Commercial Pilot Licence II

事業用操縦士コース II

Diamond AIRCRAFT DA42-VI Performance

Maximum Cruise Speed: 197kts /227mph(365km/h)
Range: 1,215nm(2250km)
Maximum Operating Altitude: 18,000ft(5,486m)

実技教育時間配分 PHASE 1/2/3

航空従事者養成施設 指定申請・審査要領における教育課目		標準教育時間			合計時間
		同 乗		単独 又は機長	
		実 機	FTD	実 機	
1. 飛行場及び場周経路における運航 2. 各種離陸及び着陸並びに着陸復行及び離陸中止	PH 1	11+25	4+00	3+20	18+45
	PH 2	3+40	2+30	9+45	15+55
	PH 3	4+25	3+30	0+40	8+35
3. 基本的な計器による飛行	PH 1	1+15	2+50	0+20	4+25
	PH 2	1+35	1+20	4+10	7+05
	PH 3	1+35	3+30	0+30	5+35
4. 外部視認目標を利用した飛行を含む空中操作及び型式の特性に応じた飛行	PH 1	14+00	9+00	3+35	26+35
	PH 2	3+35	3+10	9+35	16+20
	PH 3	4+30	3+00	0+50	8+20
5. 野外飛行	PH 1	11+30	9+40	8+35	29+45
	PH 2	0+00	7+30	28+40	36+10
	PH 3	10+30	6+00	2+00	18+30
6. 夜間飛行(野外飛行の経験を含む)	PH 1	(1+30)			(1+30)
	PH 2			(2+00)	(2+00)
	PH 3	(1+30)			(1+30)
7. 異常時及び緊急時の操作		(2+00)		(4+00)	(2+00)
8. 技能審査					(4+00)
計	PH 1	38+10	25+30	15+50	79+30 (含FTD25+30)
	PH 2	8+50	14+30	52+10	75+30 (含FTD14+30)
	PH 3	21+00	16+00	4+00	41+00 (含FTD16+00)
合 計		68+00	56+00	72+00	196+00 (含FTD56+00)

※履修時間は変動する場合があります。予めご了承ください。

※合計時間は国内一貫教育コースの場合の最小時間を表示しています。



計器飛行証明コース

— 航空局航空従事者養成施設指定 —



計器飛行訓練においては、訓練に使用できる空港に制約ある場合、どうしても限定された空港に特化したシラバスになってしまいますが、当訓練所においては、訓練に使用する空港は13空港にも渡り、多様な訓練に対応しております。それにより実践的なマネージメントを訓練に取り入れることが可能となり、他の訓練所には無い、より質の高い内容の訓練を提供しています。



学科教育時間配分

科 目	教育時間			
	入所者の要件(1)(2)		入所者の要件(3)	
推測航法及び無線航法(含RNAV)	8.0	76.0	8.0	104.0
航空機用計測機(含G1000, GPS等)	8.0		8.0	
航空気象(IFR関連)	8.0		8.0	
航空気象通報式(IFR関連)	4.0		4.0	
計器飛行等の飛行計画	10.0		10.0	
計器飛行に関する航空法規	8.0		8.0	
航空通信(IFR関連)	10.0		10.0	
計器飛行等に関する人間の限界等	2.0		2.0	
航空機の取り扱い	4.0		18.0	
航空機の操縦法	4.0		18.0	
試験	10.0		10.0	

実技教育時間配分

航空従事者養成施設 指定申請・審査要領における教育課目	標準教育時間				合計時間
	同 乗		機 長		
	実 機	FTD	実 機	FTD	
1. 空中操作	1+00	1+00	1+00	－	3+10
2. 計器飛行方式	3+00	5+00	2+30	－	10+30
3. 計器飛行方式による野外飛行	1+20	6+00	9+30	－	16+50
4. 基本的な計器による飛行	0+30	2+00	3+00	－	5+30
5. 異常時及び緊急時の操作	(1+30)	(1+30)	(3+00)	－	(6+00)
6. 技能審査	－	－	2+30	1+30	4+00
合 計	5+50	14+00	18+40	1+30	40+00 (含FTD15+30)

※「異常時及び緊急時の操作」の教育時間は、それ以外の教育時間に包括されているものを表示しています。

※各教育科目時間は最小時間、技能審査は標準時間を表しています。



～ 操縦教官を目指すあなたへ～

CPL I

Commercial Pilot Licence I

事業用操縦士コース

— 航空局航空従事者養成施設 —

Cassna 172S Skyhawk Performance

Maximum Cruise Speed : 124ktas (230km/h)
Range : 640nm (1,185km)
Maximum Operating Altitude : 14,000ft (4,267m)



大分空港をベースとしているので、訓練空域へは最短で10分とかからず到達でき、エアポートワークにあつては、離着陸の制限を受けることもありません。訓練時間の半分が移動時間に消費されてしまうようなムダもありませんので、思う存分訓練に集中して頂ける環境をご用意しています。

学科教育時間配分 (PHASE1 課程259時間含む)

科 目	教育時間	合計時間
航空の安全に関する一般知識	25.0	460.0
救急法		
プロフェッショナルとしての知識の醸成		
航空気象	220.0	
空中航法 (1)地文航法、推測航法及び無線航法 (2)飛行計画 (3)運航管理 (4)人間の能力と限界(ヒューマン・ファクターを含む)		
航空通信(概要)		
航空法規(航空交通管制及び航空情報を含む)		
航空工学 (1)飛行理論 (2)航空機構造 (3)航空機装備(動力装置含む) (4)航空機整備 (5)重量重心位置		
航空機の取扱いに関する一般知識	185.0	
航空機の操縦に関する一般知識		
試 験	30.0	

実技教育時間配分 (PHASE1 課程実機78時間／FTD24時間含む)

航空従事者養成施設 指定申請・審査要領における教育課目	標準教育時間				合計時間
	同 乗		機 長		
	実 機	FTD	実 機	FTD	
1. 飛行場及び場周経路における運航	23+50	3+10	15+10	－	42+10
2. 各種離陸及び着陸並びに着陸復行及び離陸中止					
3. 基本的な計器による飛行	5+40	2+30	6+00	－	14+10
4. 外部視認目標を利用した飛行を含む空中操作及び型式の特性に応じた飛行	19+15	8+40	18+15	－	53+35
5. 野外飛行	20+10	9+40	37+15	－	67+05
6. 夜間の飛行(野外飛行の経験を含む)	(3+00)	－	(2+00)	－	(5+00)
7. 異常時及び緊急時の操作	(2+00)	－	－	－	(2+00)
8. 技能審査	－	－	(7+15)	－	(7+15)
合 計	70+00	24+00	75+00	－	177+00 (含FTD24+00)

※履修時間は変動する場合があります。予めご了承ください。

※合計時間は国内一貫教育コースの場合の最小時間を表示しています。



MR

Multiengine Rating

多発限定コース

— 航空局航空従事者養成施設指定 —

Diamond AIRCRAFT DA42-VI Performance

Maximum Cruise Speed: 197kts /227mph(365km/h)
Range: 1,215nm(2250km)
Maximum Operating Altitude: 18,000ft(5,486m)



学科教育時間配分

科 目	教育時間	合計時間
航空工学	4.0	40.0
航空法規	2.0	
航空機の取扱いに関する一般知識	14.0	
飛行機の操縦に関する一般知識	14.0	
試 験	6.0	

実技教育時間配分

航空従事者養成施設 指定申請・審査要領における教育課目	標準教育時間		合計時間
	実 機	FTD	
1. 飛行場及び場周経路における運航	8+00	—	8+00
2. 各種離陸及び着陸並びに着陸復行及び離陸中止			
3. 基本的な計器による飛行	3+00	7+30	10+30
4. 外部視認目標を利用した飛行を含む空中操作及び型式の特性に応じた飛行	8+00	2+30	10+30
5. 異常時及び緊急時の操作	(1+15)	(0+45)	(2+00)
6. 技能審査【機長時間】	(1+00)	—	(1+00)
合 計	19+00	10+00	29+00

※履修時間は変動する場合があります。予めご了承ください。

※合計時間は、最小時間を表示しています。

◆海外提携校を紹介します。

SKY CREATION

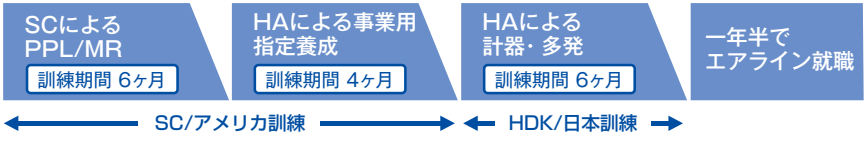


スカイクリエーションでは、航空大国アメリカ・ロサンゼルスにて、日本や世界で通用するエアラインパイロットを養成しています。

ここでは航空知識や技量だけでなく、しっかりとした基礎訓練とパイロットとしての人間性やコミュニケーション能力を身に付けて頂くことができます、本田航空との提携学校です。

スカイクリエーションでは、日本人インストラクターを中心に、航空会社も認める教育レベルと充実したカリキュラムで、世界に通用するエアラインパイロットを輩出し続けています。

日本×米国 HA-SCの一貫教育コース



OITA Flight Training Center

大分 フライト トレーニング センター 大分県国東市

訓練効率の上がる好立地条件、空港併設のトレーニングセンターです。

大分空港をベースとしての訓練環境は今まで航空会社が使用していた実績等からも分かる通り、他の空港には無い利便性があり、訓練効率を最大限に上げることができます。

訓練空域へは最短で10分とかからず到達でき、エアポートワークにあつては、離着陸の制限を受けることもありません。

訓練時間の半分か移動時間に消費されてしまうようなムダもありませんので、思う存分訓練に集中して頂ける環境をご用意させて頂いております。

HFTC は、訓練効率と安全性を両立する施設運用を実現しています。



訓練機のご紹介

セスナ 172S 単発高翼のレスプロ機で最も多く使用されているベストセラー機。自家用操縦士課程と事業用操縦士課程の飛行訓練で使用しています。

ダイヤモンド DA42-VI ダイヤモンド社製の最新機を使用し、環境に配慮するとともに高い訓練効率を実現。計器飛行証明コースと多発限定コースで使用します。

機材数…… FTD×4、C172S×8、DA42×4



DA FTD



Cessna 172S Skyhawk



Diamond DA42-VI TWIN STAR

本田航空は、創始者本田宗一郎の“大空への夢と志”大空への憧れを青少年に実現させてやりたい！人と社会の為に空をもっと身近にしたい！という想いを引き継ぎ、飛行機操縦訓練、防災、ドクターヘリコプターなどの受託運航分野で社会に貢献すべく実績を重ね、令和5年に60周年を迎える事が出来ました。

「本田航空フライト・トレーニング・センター」は(飛行機)操縦士養成機関として、航空交通が社会に果たす役割の重要性を認識し、これまでの経験を活かしつつ、更なる進化を成し遂げ、安全運航を維持する操縦士の養成に確実に対応し、社会及び航空業界のニーズに応えるべく、安全を最優先に、自主的、建設的努力を続けてまいります。

本田航空
フライト・トレーニング・センター
センター長

黒川 太朗

ロケーションー大分

Location-OITA

大分空港は、大分市の中心部から北方約 30km に位置し、国東半島東部の国東市武蔵・安岐の地先水面を埋立てて建設された海上空港になります。東に伊予灘、南に別府湾と、東南部は眺望の美しい海岸線となっています。



Trainee of Trainer

エアラインが求める人材を育成する為に
総合技量管理体制の更なる構築を目指しています。

指導教官の育成に力をいれています。

本田航空 フライト・トレーニング・センターではエアラインが求める人材を育成する為、総合技量管理体制の更なる構築を目指しています。指定養成施設として認定されることによる施設の充実、指導体制の強化、必要教材の体系化による座学体制の強化です。

指導体制の要となる教官は元エアライン、航空大学校、民間飛行学校、防衛省など幅広く、様々な経験を基にトータル・パフォーマンスを指導体制に活かしています。

今後も乗員養成部門の一翼を担い、社会、航空界のニーズに答えられるよう努力致します。



◆Honda Airwaysでは教官の実習を定期的の実施しています。

JAL/PANDAにおけるFFS研修

飛行技術の進歩や新型機種導入に伴い、更なる指導体制強化の一環として、エアラインFFS (B737-NG/A320) によるJET慣熟、エアライン運航慣熟などを目的とした教官研修、実習を定期的の実施し、2MEN CREW CONCEPT, CRM, MCC, NON TECHNICAL SKILL, TEMなどを理解し、免許の付与のみならず、将来必要とされる能力の方向性を付与し、自発的に考え、工夫し、行動できる意識、概念をも習得した人材育成を目指し、指導体制の充実に努力しています。

2013年より毎年、Honda Airwaysの教官2名が、JAL /PANDA FFSによる約1ヶ月の教官実習研修を受講、2017年も1ヶ月に及ぶJAL MCC実習を受講しています。また、2016年には、再び全教官を対象として、JALにてリカレントの座学研修を実施、2017年以降、新人教官へ1日座学研修を実施しています。教官座学研修では将来のパイロットを育てる事の重要性や、現代に則した履修方法などを改めて修得した研修内容でした。

このようなレベルの高い研修を受講する事により、Honda Airwaysでの教育水準は高く保たれています。



JAL
PANDA

Voice!



本田航空による、乗員養成実績です。

訓練事業会社においては、資格を取得した操縦士が下記の航空会社に就職し、機長や副操縦士として航空業務に従事し、貢献する事により、国内乗員養成の一翼を担っています。

主な就職先(五十音順)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| ●アイベックスエアラインズ株式会社 | ●ジェットスター・ジャパン株式会社 |
| ●天草エアライン株式会社 | ●スカイマーク株式会社 |
| ●ANA ウイングス株式会社 | ●春秋航空日本株式会社 |
| ●オリエンタルエアブリッジ株式会社 | ●全日空運輸株式会社 |
| ●株式会社 AIRDO | ●日本航空株式会社 |
| ●株式会社ジェイエア | ●日本エアコミューター株式会社 |
| ●株式会社スターフライヤー | ●日本トランスオーシャン株式会社 |
| ●株式会社ソラシドエア | ●Peach Aviation 株式会社 |
| ●株式会社フジドリームエアラインズ | ●琉球エアコミューター株式会社 |
| ●株式会社北海道エアシステム | その他 |

本田航空の乗員養成部門は、現在自社の乗員養成訓練をはじめ、法政大学の乗員養成訓練受託、ANAウイングス株式会社、Peach Aviation株式会社の自社養成訓練受託、日本航空の操縦教育証明訓練受託、三菱重工業訓練生の計器飛行証明の訓練受託、JAXA宇宙飛行士のC172による自家用操縦士取得訓練、DA42による慣熟、多発限定/計器飛行証明の訓練受託など実績を重ねつつ努力を続けています。

FAQ

よくある質問・疑問にQ&Aでお答えします。

Q：必ずライセンスは取得できるのでしょうか？

A：入校者全員がライセンスを取れることを目指しています。
しかし訓練中は何度も試験等の関門があり、それらに合格しなければ次のステップへ進めません。

Q：学生寮はありますか？

A：寮のご用意はありません。入校までに各自でご準備ください。

Q：女性もパイロットとして採用されますか？

A：海外の航空会社では多くの女性機長が活躍しています。日本の空でも女性パイロットが活躍し始めています。

Q：身長など、身体的なことでの制限はありますか？

A：身長は158cm以上、入学に際しては本学指定の身体検査(第一種航空身体検査相当)に合格出来ること。

Q：これまで文系科目を中心に学んできましたが大丈夫でしょうか？

A：プロパイロットは、幅広い知識、判断力、協調性を持ち、多様な価値観に対応できる想像力に富んだ人材が求められています。
文系の教育要素も多く含まれるため、必ずしも理系で学んできた方が有利とは限らない分野です。

Q：ライセンスを取得すれば操縦士として就職できるのですか？

A：各航空会社の採用試験に合格する必要があります。※就職実績の詳細については、上段を御覧ください。

Q：訓練に使用する機材について教えてください。

A：自家用・事業用の訓練ではセスナ172S、多発限定・計器飛行証明の訓練ではダイヤモンド DA42を使用しています。

FROM 訓練生

訓練生からの声をお届けします。

**パイロットになろうと思った
きっかけをお聞かせください。**

小さい頃からの憧れでしたが、視力が悪かったこともあり早々に諦めて一般企業に就職しました。その後、今では矯正視力でもなれることを知り、パイロットの道へ進みました。

**訓練期間で思い出に残ってること
(楽しかった、辛い経験など)**

最も辛くもあり、達成感もあり、同期に支えられていると感じたのは私の CPL審査です。朝8時フライト開始で準備して、離陸前準備をしていたところ天候が急変悪化、一旦離陸を中断しました。その後、天候の回復を待つて再度準備して離陸しました。審査自体は無事終了しましたが、全てが終わったのは日没直前でした。天候や状況の変化・各種手続きなど同期が裏で助けてくれて、同期なしには乗り越えられなかったと感じています。

体調管理はどうしていますか。

毎日7時間以上寝ることを意識しています。
また、週3～4日ジムに行って体を動かすことです。

**勉強の取り組み方について
教えてください。**

まず何をすべきか優先順位を決めます。その優先順位ごとにこなし、同期とも一緒に勉強しながら内容の整合性を取ったりしています。また、同期と勉強することで自分が思いつかなかった勉強すべきことを見つけることができます。

同期との情報共有はどうしていますか。

Googleのスプレッドシート等を使用して情報共有しています。スプレッドシートには、各人のチェックボックスを設けて、誰がチェックしたのかも確認しています。
あらゆるツールを使用して確実に情報共有します。

**1日のスケジュール(前日からの流れ)
を教えてください。**

前日の夜に次の日の訓練のイメージフライトをします。訓練当日は EOBT(機体が動き出す時間)の2時間半前にバディの同期と集合し、天候の確認などをします。その後 EOBT1時間半前に教官を交えて出発前の確認を行います。訓練可能と判断したら、EOBT30分前に機側に行き飛行機の外部内部の点検を行います。そして EOBT定刻にて出発します。